

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790100251		
法人名	株式会社ふれあい介護センター		
事業所名	グループホームふれあい楚辺		
所在地	沖縄県那覇市楚辺2丁目30番2号		
自己評価作成日	平成21年12月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo.joho-okinawa.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4790100251&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 沖縄県社会福祉協議会
所在地	沖縄県那覇市首里石嶺町4-373-1
訪問調査日	平成22年1月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「家庭的でぬくもりのある環境をつくります」というホームの理念を掲げ、その人がこれまで営んできた生活感を大切にしたい関わりを持ち、自宅で暮らしているのと変わらない環境を作れるよう心掛けています。個々への関わりの中でも職員側のペースを押し付けずに本人の意向を大切に、「自分が受けたいと思うケア」を常に念頭においています。また、利用者が「自分らしく穏やかに暮らせる」為には、日々の生活を支える職員の認知症への理解が大切だと考え、法人研修、県主催の認知症勉強会や県グループホーム連絡会主催の研修等への積極的参加を促し、認知症の人を理解した職員育成に力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者と職員で作り上げた理念の実現に向け、個性を大事に生きがい作りをサポートする為の取り組みを行っている。その事により利用者が生き々と生活している様子が随所に見てとれる。また、利用者同士声をかけ支えあう様子には家庭的なぬくもりを感じる。民生委員や近隣住民との連携も密にとられ協力体制も築かれている。管理者は職員の質の確保、向上に向けた育成の重要性を認識しており、学びの機会を計画的に実施している。それは利用者の自立支援へと繋がっており、管理者の熱意、ケアに取り組む職員の真摯な姿が伺える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員でケア理念を作成し、事業所内に掲示。毎日の朝礼時に復唱し、理念に則したケアが出来るよう努めている。	管理者や職員は共に地域密着型サービスの意義や役割を考えて理念を作り上げている。職員はサービスを振り返り、理念がケアに反映されているか日々確認を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	民生委員主催のミニデイへの参加や、近隣作業所、ヤクルト事業所からの訪問販売受け入れ等を行なっている。また、緊急時の近隣住人による連絡網体制を民生委員により作られているので、当ホームも参加できるような体制作りを民生委員と検討中。	近所の警察署と協力関係を築き、近隣との付き合いや通り会へ入会し地域の美化活動、防犯活動に参加している。また、近所の民生委員宅で認知症に関する学習会を開催し相談等も行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアの受け入れを行ない、認知症の方への関わり方を伝えている。また、認知症サポーター養成講座の開催や、広報誌により認知症への認識を広めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議を行ない、スライドを使用して活動内容報告等を行なっている。その際に受けた助言に関しては、改善する努力を行なっている。	利用者及び家族、住民代表、民生委員、市の職員等の参加で事業所からは活動状況報告を行っている。ヒヤリハットやインフルエンザ等に関する委員からの意見、助言を活かし改善に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	電子メールを利用した情報のやり取りを行なったり、運営推進会議による状況報告等を行なっている。	管理者は日常的に市へ出向き、事例相談、事業所の取り組み状況を報告し担当者から助言をもらう等協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は行なわず、常に開かれた空間を作っている。勉強会やミーティングを通して、職員の身体拘束への理解も進み、拘束や抑制は行なっていない。	配達された新聞を利用者が受け取っており、玄関は自由に入出りできる。管理者は身体拘束の内容について学習会、ミーティングで理解を促し、職員も具体的な行為を振り返り点検している。また、近所の方の理解を求め、外出している利用者に声かけをしてもらっている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設開所時の職員研修や採用時研修の中で虐待防止について学び、日頃の業務においても虐待に繋がる行為がないように防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設開所時の職員研修や採用時研修の中で権利擁護について学び、制度を理解するよう取り組んでいる。また必要性のある方に対し、権利擁護事業の活用を市役所と共に話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、内容の説明を十分に行なうよう心掛け、当日の捺印ではなく一度持ち帰って熟読した上で、捺印して頂くよう対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の開催時や行事へ参加して頂いたご家族より、意見・要望を気軽に話して頂けるよう、常日頃より関係作りに積極的に取り組んでいる。また意見・要望に関しては、ミーティングを通して全スタッフに周知し、改善に向けた話し合いを行なっている。	意見は面会時や定期的な家族会等で表現できる機会を設けている。意見として挙げた清潔保持についてミーティングで話し合い改善し運営に反映させた。また、意見箱の設置を管理者は考えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや、適宜、職員の意見を聴くよう心掛け、運営に反映できるよう努めている。また必要に応じて、個別の面談も取り入れている。	ミーティング、申し送り時、個別の面談等で職員の意見を聴く仕組みがある。更に日々の業務に関わる事で職員の悩みの理解に努めている。職員の異動、退職については利用者へ丁寧に説明を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	契約社員の正社員への登用や資格者への手当て、資格試験合格時の受験料支払い制度や、業績が良ければ全職員へのボーナス支給を行なっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の法人内研修は、出来るだけ多くの職員が参加できるように、同じ内容を2回行なっている。また、外部研修も平等に全職員が参加できるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宜野湾地区の介護職員向け認知症介護勉強会を法人が事務局担当を行ない、同業者と意見交換を行なう機会を設けている。また、県のグループホーム連絡会主催の職員研修へも積極的に参加を促している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の相談は実態調査を1回で終わらせるのではなく、何度か顔を合わせながら、信頼関係を作り不安を軽減できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の相談は実態調査を1回で終わらせるのではなく、何度か顔を合わせながら、信頼関係を作り不安を軽減できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当者会議開催時に、これまでの関わりのある方も交えて必要とされているサービスを検討できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は研修において生活を共にするパートナーという意識を持つよう指導をうけており、できるだけ職員主導で行なわずに一緒に行動を行なうように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族面会時や家族会開催時に利用者の日々の状況を伝え、情報を共有するようにしている。事業所の行事への家族の参加も促している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時には馴染みの物を持ってくるよう本人と家族にも促している。入居者との会話の中に出てくる馴染みの事柄に着目し、馴染みの場所に行くなど、ドライブや行事に反映させている。	友人が気軽に遊びに来る、馴染みの美容院への外出支援、法事や行事への参加が日常的に行われ馴染みの関係が途切れない様支援している。また、毎日昼食の準備の為に仕掛けるミニデイでは、馴染みの方との交流も行われている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係が上手くいくよう配慮しており、他者との関係作りが難しい時には職員が仲介して上手くいくように配慮している。日々の活動の中でも個々の役割がある中で、お互いが支え合えるような体制ができるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時には、その後の支援体制について関係者と共に話し合い、退所後も必要に応じて相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中に出てくる本人の思いを大切に、外出支援や活動のサポートをするなど、本人の意向に沿った支援を行なうよう努めている。	利用者や家族からの希望、意向の把握に努めている。把握が困難な利用者については、日常のしぐさや会話の中から汲み取るように努めている。これまでに入浴時間、金銭管理について本人の意向を汲み取り支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の個人ファイルに記載された生活歴に目を通したり、会話の中で昔の話を聞いて把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケースカンファレンスを行ない、一人ひとりの状態やペースの把握を行なっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケースカンファレンスやケアプラン更新時の担当者会議等で、職員、本人、家族、関係者の意見を反映させて介護計画を作成している。	面会時に家族の意見を聴き、本人、主治医、薬剤師、看護師等関係者と話し合い、意見を反映させた介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は、その都度記載するよう努め、申し送りにて情報の共有をするよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診に同行できない家族の代行や、散髪や嗜好品の買い物への付き添い、散歩同行など突発的に発生した本人や家族のニーズにも出来るだけ対応できるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議で民生委員や市役所職員や近隣住民から情報を得て、出来るだけ地域資源を活用するよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は往診を中心に行なっているが、本人、家族の意向を大切に、これまでのかかりつけ医を継続して利用している方もいる。往診以外の受診時にはバイタルチェック表等を活用して連携に努めている。	基本的には家族対応となっているが、管理者が付き添うこともある。ケアの記録や看護師が定期的に行っている健康チェックの情報も提供し、適切な受診ができる様支援している。また、往診は24時間対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診の際には必ず看護師が付き添うようにし、介護職は看護職に日々の状態の相談、報告をし助言も受けている。訪問看護師に対しても、その都度の状態、状況の報告を行ない、適切な受診へとつながるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院者は今のところいないが、協力医療機関には利用者の情報提供を行っており、また主治医と連携を取りながら、主治医、協力医療機関の連携もスムーズに取れるような体制を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、終末期のあり方について家族の意向を確認しており、重度化した際の方針に関しても話し合っている。現在、重度化している方はいないが、状態に応じてその都度、方向性の話し合いを行なっていく意向である。	入居時に終末期の対応について家族の意向を確認している。また、急変時の対応について学習会も定期的に行っている。重度化や終末期に向けたマニュアル作りや学習会は今後の課題として考えている。	家族から事業所や在宅で対応したいという声も寄せられている。今後は家族や利用者の声に応える為にも課題として考えているマニュアル作りや学習会の実現に向けた取り組みを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内研修にて急変時の対応について学んだり、消防職員からの救急法の指導も受けている。今後も年に一度は救急法の勉強会を行なう予定である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は年に2回行なう予定をしている。民生委員協力のもと、地域との避難体制の連携や緊急時協力体制の構築を検討中である。	2月に通報、消火、避難訓練を予定している。消防署の協力を得て設備点検を終え、管理者はマニュアルを作成している。また、民生委員の協力を得て地域との協力体制の構築を進めている。	夜間を含め利用者が安全に避難できる方法を職員が身につけると共に、地域との協力体制のもと訓練ができる様早急な対応に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇の研修を行ない、利用者への言葉かけや対応には配慮している。時折、言葉使いが雑になったり、プライバシーへの配慮が欠ける場面があるため、気付いた時には職員同士も声を掛け合うよう努めている。	管理者は職員採用時に研修を行い、ケア提供の場では言葉使いや対応が馴れ合いになっていないか助言を行っている。職員は利用者へのさり気ない対応、言葉かけに細心の注意をはらっている。個人記録は鍵付きの書棚に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の意思の確認を行ったり、選択肢を提示するなど、自己決定を促し支援を行なうよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り本人のペースを大切に、個々の希望に沿った支援をするよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者がこれまで培ってきたスタイルを大事にし、美容室でのヘアーセット、パーマ、白髪染めを行ったり、化粧品やマニキュアの購入に付き添ったり、個々の要望に沿った支援が出来るよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者個々の能力に応じた準備や片づけを職員と一緒に進めており、おやつ作りや料理の内容によっては利用者指導のもと、調理を行なう場面もみられる。	食事の準備、盛り付け、配膳、片付けまで利用者の力や好みを活かしながら職員と一緒に進めている。職員と利用者が同じテーブルを囲み会話を交わしながら食事をし、家庭的な雰囲気作りをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	昼食は栄養士が作成した食事の提供を行っている。朝、夕は職員が立てたメニューでの食事提供だが、好みに応じて個別対応も行ったり、希望に応じてメニュー変更も行っている。食事量や水分量はその都度チェックし、把握するよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを促し、出来ない方に対しては介助をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	現在、おむつ使用者はおらず、排泄に関しても自立しておられる。自立歩行が困難な方に対しては、本人の訴えやサインを大切にトイレ誘導行なっている。	夜間帯の誘導困難な方に対して状況把握を行い、職員間で情報の共有化を図り、ミーティングを重ね排泄の自立支援へと繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向の利用者は多いため、水分摂取の促しや食事内容、食事材料に関しても検討しながら改善できるよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	大半の方が入浴も自立しておられる為、利用者の希望に合わせて入浴できるようにしており、時間帯も自由となっている。介助を要する方にも希望を確認した上での入浴を行なっている。	利用者個々に応じシャワーや浴槽対応しており、本人の希望にそった支援を行っている。また、冬場には浴室、脱衣場を暖める等工夫が見られる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の希望で過ごして頂いているが、生活リズムが崩れそうな場合は、理由を説明して、日中の活動への促しを行ったり、午睡を減らしていただくこともある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者の処方箋をファイルに添付し、職員は目を通している。また、薬剤師からの薬学的指導管理計画書もファイルしており、職員が確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ビデオ鑑賞や散歩、買い物、家事手伝い、ドライブ等、利用者の要望や生活歴に応じて気分転換や楽しみのある生活が送れる様な支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出行事や希望時はドライブも行なったり、買い物の同行など常に外出できるよう努めている。事業所の外出行事には家族の参加も促し協力いただいている。	趣味活動の為に買い物、役所への手続き、昼食の準備の為に外出等日常的な支援を行っている。また、街頭で行われたマラソンの応援にボランティアの協力を得て利用者全員で出かけた。声援に対しランナーからお礼の声も聞かれた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来る方には個人で所持して頂き、使用できるようにしている。自己管理が難しい方は事業所管理しているが、希望があれば使用して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望があればその都度、電話を掛けたり手紙等の郵便物を出す支援をしている。また、正月の年賀状作成の支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	心地よい環境作りには配慮しているが、利用者個々の好みが違うため、今も試行錯誤しながら空間作りを行なっている最中である。	壁の色、ブラインドを用いた採光の調整、場に応じた音楽、脱臭器の活用、作品の掲示、独りで過ごせる椅子の配置等、居心地良く過ごせる様に工夫されている。共有空間から眺める庭には、果樹や野菜の他、色彩豊かな季節の花が咲いている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1、2階へのソファの設置や中庭に面した縁側等で、その時々気分に応じて色々な環境が選択できるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の好みの物や馴染みの物を持ちこむよう、入居時に本人や家族に促している。また本人が希望する物があれば、家族へ持ち込みを促したり、必要とあれば購入も促している。	居室にはテレビやこたつ、家族の写真、時計、テーブルなど馴染みの物が持ち込まれ、居心地良く過ごせる様工夫している。ベッドは利用者の希望する伊良部町に配置し個性豊かな居住空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家庭的空間を保っている為、表示等はないが、馴染みの空間を作ることにより、入居者がそれぞれの場所の認識をして自立した生活が送れるよう支援している。		